

世界史 B (4 問題 100 点)

I 世界史 B 問題 (20 点)

4 世紀から 12 世紀にかけて、長江下流地域(江南地方)における開発が進み、中国経済の中心は華北地方からこの地域に移動した。この過程を、300 字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

Ⅱ 世界史B問題

(30点)

次の文章(A, B, C)を読み, の中に最も適切な語句を入れ, 下線部(1)~(4)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A インド亜大陸の文明は, インダス川流域の遺跡モエンジョ = ダーロやハラッパーを代表とするインダス文明の時代に始まる。この文明の衰退後, 紀元前1500年頃からインド = ヨーロッパ語系のアーリア人が, パンジャーブ地方に進入し始めた。アーリア人の社会組織や宗教文化は『リグ = ヴェーダ』をはじめとするヴェーダ文献の中に記録されている。インドに入ったアーリア人の宗教はバラモン教であり, この教えが基盤となって, その後様々な要素が加わり, ⁽¹⁾歴史的な変遷を経ながら, 現代の a 教へとつながっている。

前6世紀には, ブッダと尊称される b の説いた仏教と, マハーヴィーラの尊称を持つヴァルダマーナを始祖とする c 教が興った。このふたつの宗教はバラモン教の祭式やヴェーダ聖典の権威を否定した。

前4世紀にアレクサンドロス大王の東方遠征がインダス川流域にも及び, 周辺に混乱が起⁽²⁾こった後, ガンジス川流域に首都をおいた d 朝が成立し, アショーカ王の時代に最盛期を迎え, 南端部を除くインド亜大陸の全域を ⁽³⁾支配した。アショーカ王は仏教に帰依し, 法(ダルマ)に基づく統治を宣言する詔勅文を石柱や岩壁に刻ませた。アショーカ王の死後, d 朝は衰退し, 紀元後1世紀に中央アジアのイラン系民族とされる e 族の勢力がインダス川流域にも及び, e 朝を建てた。この王朝は2世紀半ばの f 王の時代が最盛期で中央アジアからガンジス川中流域までを支配し, 仏教を庇護し, 首都プルシャプラを中心とする g 地方でも, 仏像⁽⁴⁾が製作され始めた。4世紀には d 朝と同じ都市に首都をおいたグプタ朝が勃興し, チャンドラグプタ2世の時代に最盛期を迎え, 北インド全域を ⁽⁵⁾支配した。グプタ朝の時代には仏教や c 教のほかに a 教が社会に浸透, 定着し始め, バラモンの使用する言語であるサンスクリット語の文学作品や, バラモンの特権的な地位を強調した法典である h が, 現在伝えられるような形にまとめられた。⁽⁶⁾

グプタ朝の滅亡後、7世紀前半にはヴァルダナ朝のハルシャ王が北インドを支配したが、その死後北インドには強力な統一政権の存在しない状況が長く続いた。⁽⁷⁾

問

- (1) バラモンは祭儀を司る祭司階級のことであるが、バラモンを最高位とし、クシャトリヤ(王侯, 戦士), ヴァイシャ(農民, 牧畜民, 商人), シュードラ(隷属民)などによって構成される古代インドの身分制度を何とよぶか。
- (2) アレクサンドロスが前334年東方遠征に出発した目的は、東方のある国を討つためであった。当時その国を支配していた王朝の名を記せ。
- (3) 朝が首都をおいた都市の名を記せ。
- (4) この王の時代にスリランカ(セイロン島)へ仏教の布教が行われたという伝説がある。スリランカからさらに東南アジアへ伝えられ、現代でもタイやミャンマー(ビルマ)などの国々に多くの信者を有している部派仏教は何とよばれるか。
- (5) インド中部において、より古い時期から仏像が製作された、ヤムナー河畔にある都市の名を記せ。
- (6) この王の時代に、中国の東晋からインドを訪れて旅行記を著した仏僧の名を記せ。
- (7) 8世紀の初め、西方からイスラーム教徒の軍隊がインダス川下流域のシンド(スィンド)地方に侵攻した。当時、西アジアと北アフリカを支配していたアラブ人を中心とするイスラーム教徒の王朝の名を記せ。

B 王朝の殿前都点検として軍を掌握した趙匡胤は の恭帝から禅譲を受けて帝位につき、宋を建国した。唐末以来、地方に軍閥が割拠して中央の政権を弱体化させる状況がつづいていたので、彼は節度使の権限を縮小するほか、軍政を司る枢密院を強化して中央集権化をすすめた。10世紀末から11世紀初頭にかけて、契丹は燕雲十六州を足場として南進をはかり、東にむかっては高麗に攻勢をかけた。⁽⁸⁾ を都とした西夏も宋にとって脅

威の一つであった。こうした情勢のもと、宋の政府は歳入の不足に苦しんだ。王安石は「万言書」として知られる改革案を提起して頭角をあらわし、神宗に登用されると制置三司条例司を設置して「新法」とよばれる一連の政策を実施した。⁽⁹⁾

宋代には海上交易が盛んであり、政府は沿岸の港市に 司を置いて貿易を管理し、収入の増大をはかった。インド洋方面からイスラームを信奉する商人が多く来航し、東南沿岸部に定住するものもいた。インド文化が優勢であった東南アジアでは港市を中心としてイスラームが浸透し、スマトラ島、ジャワ島、マレー半島にとどまらず、今日までスルタンの政権がつづいているブルネイが位置する 島やフィリピン諸島の沿岸部にムスリムの活動がひろがった。

問

- (8) 高麗の建国者は誰か。
- (9) 「新法」のうち、差役(徭役)を錢納化するものの名を記せ。
- (10) 14世紀前半の北アフリカから中国におよぶ広大な地域の情報を記した旅行記の作者として知られる人物は誰か。
- (11) この島の北端近くの港市は、15世紀にその支配者がイスラームに改宗して中国とも交易した。この港市を中心とした国家の名を記せ。

C 1894年、日本と清とは朝鮮半島への影響力を争って戦端を開いた。翌年、清政府が日本との講和をすすめるという消息が伝わると、中国国内ではこれに⁽¹²⁾ 反対して戦争継続を求める声があがった。この時、北京に滞在していた は同調者を糾合して「公車上書」と呼ばれる建白書を上呈する運動を推進した。1898年、光緒帝に登用された は立憲君主制への移行をめざす政治改革に着手したが、慈禧太后(西太后)ら保守派のクーデタによって失脚し、日本に亡命した。

1905年、清王朝の打倒をめざす人びとが東京で 会を結成し、革命をめざす運動の高揚をはかった。1911年、武昌蜂起が起こると、朝廷の支

配から離脱する動きが各省にひろがり、翌年1月には を首都とする臨時政府が成立した。清の朝廷は革命に対処するため を起用した。臨時政府側との交渉において は自分が大総統に就任することを条件として、清の朝廷に統治権を放棄させることを約束し、これを実現した。しかし、その後も政治的な混乱がつづき、 の急死後には、軍閥が中央の政権掌握と地方の支配とをめぐって相互に争う状況となった。この時期には、⁽¹⁴⁾中国の伝統や習俗に自省の眼をむけ、新たな精神文化を求めようとする人びとがあらわれた。

問

- (12) 朝鮮では日本を牽制するためにロシアに接近する外交政策が模索された。親露政策を推進したことで知られ、この戦争の終結後に宮廷内で暗殺された王妃の姓を記せ。
- (13) ロシアはこの講和条約によって日本に割譲された地域の一部を清に返還するよう圧力をかけた。清はロシアに鉄道敷設権を与えて関係を深めた。清から得た利権にもとづき、ロシアがチタとウラジオストクとを結ぶ路線として建設した鉄道の名称を記せ。
- (14) 文化運動の担い手の一人として、『阿Q正伝』、『狂人日記』などの作品を著した文学者は誰か。

Ⅲ 世界史 B 問題

(20 点)

アメリカ合衆国は、第一次世界大戦後のパリ講和会議で主導的な役割を演じながら、国際連盟に参加せず、再び政治的孤立主義に回帰したともいわれる。しかし実際には、アメリカは 1920 年代の政治的・経済的な国際秩序の形成に重要な役割を果たした。アメリカが関与することによって、どのような政治的・経済的な国際秩序が形成されたのか。1921 年から 1930 年までの時期を対象に、具体的な国際的取り決めに触れながら、300 字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

IV 世界史B問題

(30点)

次の文章(A, B, C)を読み, の中に最も適切な語句を入れ, 下線部(1)~(20)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A アルプス山中に源を発し, ドイツ西部を流れて北海に注ぐライン川は, 古代から重要な意味を持つ河川であった。アルプスを越えて北方に侵攻したローマは, カエサルのガリア遠征の時期にライン川まで勢力圏を広げた。1世紀の終(1)わり頃になると, ローマはライン川の西岸地域を河口近くまで領有し, 属州を(2)設置し統治し始めた。ローマ帝国領はライン川, およびその東側に築かれた防壁で守られ, 領内には数多くの都市や要塞が建てられたが, マインツ, ボン,ケルンなど, 今日(3)のライン川沿いの主な都市は, その都市としての起源をローマ帝国時代にもっている。

3世紀にローマ帝国が混乱期にはいると, ゲルマン系の部族集団がライン川を越えて帝国領に侵入する事件がしばしば生じた。その後, 混乱を克服し帝国再建(4)をめざしたディオクレティアヌス帝のもとで, ライン川地方の安定が一時回復されるものの, 4世紀後半以降になると, 帝国領の外に居住していたゲルマン系の諸部族が続々とライン川を渡って移住するようになった。多くの部族が長い距離を移動して国を建てた(5)中で, フランク族はライン川から西へ向かったものの大きくは移動せず, ラインの西側を並行して流れるマース川(ムーズ川)までの間の地域(6)を中心に定着し, 分立していた小国を統一して王国を形成した。そして, ここからヨーロッパの新しい政治秩序を作り出してゆき, カール大帝(7)の時には近隣諸部族を制圧して, 西ヨーロッパの主な部分を統一する大国家になったのである。

カール大帝の死後, 大国家は数度にわたって分割され,マース川付近から東(8)が東フランク王国となったが, ライン川はこの王国の西部を流れる主要河川として, ますますその重要性を増し, 中世を通じてライン沿岸都市は商業で栄えるようになった。(9)

問

- (1) カエサルがガリアに遠征できたのは、ポンペイウスとクラッススとともに盟約を結んで、それまで国政に対して大きな権力と権威を行使してきた政治機構の影響力を排除したことによる。この政治機構の名を記せ。
- (2) 1世紀終わり頃のローマ帝国の状況を正しく説明した文を、次の(a)~(d)より1つ選んで、記号で答えよ。
 - (a) ギリシア人ポリュビオスが、ローマがいかにして地中海世界の覇権を握ったかを主題とする歴史書を執筆した。
 - (b) グラックス兄弟が護民官となって、改革を始めた。
 - (c) 帝国政治は比較的安定し、アジア方面との交易など経済活動も活発に行われていた。
 - (d) 禁止されていたキリスト教の信仰が公認され、同時に教義の面での争いが激しくなった。
- (3) ローマ帝国西部には、ライン沿岸に限らず数多くのローマ風都市が建てられ栄えたが、そうした都市の多くには、フォルムや会堂、劇場や公共浴場とともに、人々の娯楽のために建てられた重要な公共建築物があり、今日でも各地でその遺跡をみることができる。この公共建築物の名を記せ。
- (4) ディオクレティアヌス帝は、皇帝権力の強化と神聖化を行うとともに、軍隊の反乱を防ぎ外敵の侵入に効果的に対処するための重要な措置を実施した。この措置の内容について、その要点を簡潔に記せ。
- (5) ゲルマン系の諸部族の中で、長い距離を移動して北アフリカに国を建てた部族の名を記せ。
- (6) ライン川とマース川(ムーズ川)との中間に位置し、カール大帝の重要な宮廷所在地となった都市の名を記せ。
- (7) カール大帝は、ゲルマン系の部族が6世紀に北イタリアに建国していた王国を滅ぼした。この王国の名を記せ。
- (8) 西フランク王と東フランク王が中部フランク王の領土を分割することを約した870年の条約により、後のフランス、ドイツ、イタリアの大まかな枠組みができあがることとなった。この条約の名を記せ。

(9) 13世紀頃に誕生し、ライン沿岸のケルンなども参加した、北ドイツの都市の一大同盟の名を記せ。

B ルイ 14 世は 1643 年、幼くしてフランス王となった。この時フランスは、スウェーデンなどの新教国陣営に加わって三十年戦争を戦っており、即位の翌年⁽¹⁰⁾にはフライブルクでの激戦の結果、バイエルン選帝侯の軍隊に勝利した。三十年戦争は、1648 年にヴェストファーレン(ウェストファリア)条約が結ばれて終結した。同年、フランスでは⁽¹¹⁾ a の乱が勃発、混乱は 6 年におよんだが、宰相マザランによって鎮圧された。1661 年にマザランが没すると、ルイ 14 世は親政を開始する。国王の権力は神に由来し、いかなるものもそれを制約することができないとする王権神授説を奉じ、フランスの絶対主義王政を樹立することになる。⁽¹²⁾

王は財務総監としてコルベールを登用した。コルベールは重商主義的な経済政策を実施して、官僚機構の整備や軍隊の増強に必要な財政の基盤をつくった。⁽¹³⁾この強大な軍事力は、ルイ 14 世の領土拡大政策において発揮されることになる。1667 年、ルイ 14 世はスペイン王の死去に乘じ、スペイン領であった南ネーデルラントの領有権を主張して軍を進攻させた。これに脅威をおぼえたオランダは、交戦中であったイギリスとの戦争を停止し、逆に同盟を結んでフランスと対峙した。⁽¹⁴⁾そのオランダにも、フランスは 1672 年以降侵略を企てたが不成功に終わった。

さらに 1688 年には、隣接するファルツ選帝侯領の継承権を主張するフランスと、ルイ 14 世の覇権主義に反対してアウクスブルクで同盟を結んだ諸国との間で、ファルツ継承戦争(大同盟戦争)が始まる。同年イギリスで名誉革命が起こり、オランダのオラニエ公ウィレムがイギリス王として即位した。その結果イギリスも同盟に参加することになる。イギリスとフランスとの衝突は植民地にも飛び火し、この後 1 世紀以上つづく、英仏の海外における対立抗争の発端となった。⁽¹⁵⁾

1700 年には、スペイン=ハプスブルク家のカルロス 2 世が死去し、ルイ 14 世の孫がフェリペ 5 世として即位した。これに反対し、オーストリア、イギリ

ス、オランダが同盟してフランス・スペインに宣戦を布告した。スペイン継承戦争といわれるこの戦争は、ユトレヒト条約でようやく終結をみる。この条約⁽¹⁶⁾で、ブルボン家によるスペイン王位継承は承認されたが、フランスによるスペインの併合は認められず、スペイン領の南ネーデルラントやナポリ王国はオーストリアに割譲され、全体としてはフランス・スペインにとって失うものが多かった。ルイ 14 世の侵略戦争はこうして、フランスの財政を逼迫させた。また 1685 年に b を廃止したため、商工業者に多かった新教徒が国外に亡命してフランス産業の停滞を招いた。

問

- (10) 三十年戦争に新教徒の保護を名目として参戦したスウェーデンの国王の名を記せ。
- (11) ヴェストファーレン条約が、その後のドイツ・オーストリア地域に与えた政治的影響について簡単に記せ。
- (12) ルイ 14 世の時代に、『世界史叙説』などを著してこの説の主唱者となった人物の名を記せ。
- (13) コルベールが実施した経済政策のうち主なものを 1 つ記せ。
- (14) この戦争は、オランダが北米大陸に建設した都市をイギリスが征服したことがきっかけで起きた。建設当時のこの都市の名を記せ。
- (15) ウィリアム王戦争と呼ばれるこの時の戦争は、北米大陸の英仏植民地間の戦闘であった。第 2 次英仏百年戦争と呼ばれるこの後の抗争で、両国が領土の支配や勢力の優位をめぐって戦った北米大陸以外の地域を 2 つあげよ。
- (16) イギリスはこの条約でアシエントと呼ばれる、大西洋地域における交易の独占権をスペインから獲得した。この交易が対象としたのは何か。

C 近世以降のバルカン半島では国境の移動が繰り返され、19世紀になると新しい国家が生まれるようになった。

1683年の第2次包囲を最後にオスマン帝国が都市 を脅かすことはなくなり、1699年のカルロヴィッツ条約で広大な領域がハプスブルク家の支配下に入った。⁽¹⁷⁾ 18世紀には、ベオグラード周辺をオーストリアが一時領有したこともある。ロシアも1774年のキュチュク=カイナルジャ条約でオスマン帝国領内に居住する の保護権を獲得し、これを口実にバルカン半島各地に領事館を設置している。エカチェリーナ2世はコンスタンティノープルを首都とする「ギリシア帝国」の創設を計画し、⁽¹⁸⁾ ヨーゼフ2世にも協力を要請している。

ギリシアに特別な眼を向けていたのは、宗教を同じくするロシアだけではない。特に18世紀後半以降、古代ギリシアはヨーロッパが参照すべき理想的過去の一つとして重視され、ギリシア人は高度な文明を生み出した人々の子孫とみられるようになっていた。こうした考えはギリシア人自身にも影響を与え、独立運動が出現するようになる。1821年から始まる独立戦争では、著名なロマン派詩人 などさまざまな人物が義勇軍に身を投じたり、戦争募金に応じるなどして熱烈に独立運動を支援した。ロシアなど3か国の政府は、⁽¹⁹⁾ 当初はギリシア独立に対して積極的支援を行わなかったが、結局1827年に共同でオスマン帝国・エジプト連合艦隊を撃破するなどして、独立に手を貸すこととなった。ただし新生ギリシア王国に居住するギリシア人は、ギリシア人全体の一部に過ぎず、ギリシア政府はその後も領土拡張を模索している。

ベオグラードを首都とするセルビアも、1804年の第1次蜂起、1815年の第2次蜂起後に自治公国の地位を獲得し、1878年には やモンテネグロとともに独立国となった。さらに1908年にはブルガリアも完全独立している。⁽²⁰⁾ しかしセルビアや はオーストリアとの間に領土問題を抱えており、第一次世界大戦ではオーストリアと交戦することになる。

問

- (17) この時ハプスブルク帝国領となり、第一次世界大戦終結まで帝国の一部であった地域の名を1つ記せ。
- (18) エカチェリーナ2世ら啓蒙専制君主が構想した政策の多くは、「ギリシア帝国」計画のように計画のままに終わり、あるいは失敗した。しかしヨーゼフ2世が施行した政策の一部は、フランス革命を先取りしたものとして評価されることもある。そのような政策のうち1つを簡潔に記せ。
- (19) (ア) 3か国のうち2つはロシアとフランスである。残り1つの国名を記せ。
- (イ) 3か国が当初独立戦争支援に消極的であった理由を、簡潔に説明せよ。
- (20) 独立の直接のきっかけとなった、旧支配国における事件の名称を記せ。

世界史Bの問題は、このページで終わりである。